

平成29年度モニタリング箇所 モニタリング間隔検討資料

No.	計画区	樹立年度	保護林名称	保護林区分	面積	現在のモニタリング 予定年度	実施間 隔(年)	5年の 要素			主な被害			備考	
								ア	ウ	エ	シカ	クマ	病虫害		
1	八溝多賀	30	小川ブナ希少個体群保護林	希少	103.51	29	5	ア						保護林内のシラカンバ群落は茨城県内における数少ない自生地の一つであり、遷移途中にあることから、今後のシラカンバ群落の推移に注視が必要な保護林。	
2			板木リンボク・カゴノキ希少個体群保護林	希少	10.68	29	10								
3			和尚山ブナ希少個体群保護林	希少	23.17	29	10								
4			猿ヶ城アズマシャクナゲ希少個体群保護林	希少	28.40	29	10								
5			西金砂スタジイ希少個体群保護林	希少	14.39	29	10								
6			花瓶山ブナ・イヌブナ希少個体群保護林	希少	11.93	29	10								
7			八溝山ツガ・ダケカンバ希少個体群保護林	希少	29.49	29	5	ア	ウ						ダケカンバ、ツガの林分からブナ、ミズナラが占有する林分への遷移途中にある保護林。
8	鬼怒川	30	奥鬼怒生物群集保護林	生物群	2,585.35	29	5	オ		○				下層植生に鳥獣被害が顕著に見られることから、群落構造・生育環境の変化、構成樹種等の生育状況を注視する保護林。	
9			裏見の滝コナラ遺伝資源希少個体群保護林	希少	4.96	29	10								
10			刈込湖コメツガ遺伝資源希少個体群保護林	希少	35.28	29	10								
11			黒沢ウラジロモミ・クロベ遺伝資源希少個体群保護林	希少	13.88	29	10								
12			千手ヶ原ミズナラ・ハルニレ希少個体群保護林	希少	98.95	29	5	オ			○				主木間の競合状況、後継樹の生育状況の確認が必要な保護林。 対策：植生保護柵を一部設置済み。
13			西ノ湖ヒメコマツ・シロヤシオ希少個体群保護林	希少	56.24	29	5	オ	キ	○					保護対象木の競合状況、後継樹の生育状況の有無の確認が必要な保護林。 対策：樹皮剥ぎ防止ネット設置済み。
14			湯滝ミズナラ遺伝資源希少個体群保護林	希少	13.18	29	5	オ		○					シカの食害が顕著なエリアのため、下層植生の変化に注視が必要な保護林。 対策：植生保護柵を一部設置済み。
15			竜頭の滝カラマツ遺伝資源希少個体群保護林	希少	12.98	29	5	オ	キ	○					カラマツの枯損木発生状況、後継樹の生育状況及び他種との競合状態等について注視が必要な保護林。
16			大真名子コメツガ希少個体群保護林	希少	12.24	29	10								
17			小田代湿原希少個体群保護林	希少	69.28	29	5	オ	キ	○					湿原の一部に乾燥化等環境の変化が見られ、利用過多による裸地化、外来植物の侵入による生育状況の変化等に注視が必要な保護林。 対策：植生保護柵を一部設置済み。
18			唐沢コメツガ希少個体群保護林	希少	57.08	29	5	オ	キ	○					シカの食害が顕著なエリアのため、後継樹の生育状況及び他種との競合状態等について注視が必要な保護林。 対策：剥皮防止ネットを設置済み。
19			光徳ハルニレ希少個体群保護林	希少	13.71	29	5	オ		○					シカの食害が顕著なエリアのため、保護対象木、下層植生への影響に注視が必要な保護林。 対策：植生保護柵を一部設置済み。
20			光徳ミズナラ希少個体群保護林	希少	24.28	29	5	オ	キ	○					シカの食害が顕著なエリアのため、保護対象木、下層植生への影響に注視が必要な保護林。 対策：植生保護柵を一部設置済み。
21			戦場ヶ原湿原希少個体群保護林	希少	174.68	29	5	オ	キ	○					湿原の一部に乾燥化等環境の変化が見られるため、乾燥化に伴う木本類の侵入、利用過多による裸地化、外来植物の侵入に注視が必要な保護林。 対策：植生保護柵を一部設置済み。
22			高原山イラモミ希少個体群保護林	希少	90.89	29	5	オ		○	○				シカの食害が顕著なエリアのため、保護対象木、下層植生へのシカの影響に注視が必要な保護林。
23			茶ノ木平ウラジロモミ希少個体群保護林	希少	81.43	29	5	キ	オ	○					シカの食害が顕著なエリアのため、保護対象木、下層植生へのシカの影響に注視が必要な保護林。
24			原付ヒノキ希少個体群保護林	希少	9.01	29	10								

No.	計画区	樹立年度	保護林名称	保護林区分	面積	現在のモニタリング予定年度	実施間隔(年)	5年の要素			主な被害			備考	
								オ	キ		シカ	クマ	病虫害		
25	山梨東部	30	諏訪森アカマツ希少個体群保護林	希少	10.79	29	5	オ					○	マツノザイセンチュウによる被害が発生しているエリアであることから、被害の発生状況に留意しつつアカマツの生育状況に注視が必要な保護林。対策:松枯れ防止剤の樹幹注入実施中。	
26	天竜・静岡	30・31	南アルプス南部光岳森林生態系保護地域	生態保	3,247.99	29	5	オ	キ	○				コメツガを主体とする天然林は健全に生育・更新しているが、一部区域(白倉・中ノ尾根山)にシカ被害が見られることから、被害状況や程度の変化に留意し、既設プロットを対象にシカ被害をモニタリングする。	
27			コガネ沢ブナ・イヌブナ遺伝資源希少個体群保護林	希少	28.21	29	5	オ	キ	○				イヌブナ等の成木の生育状況や主木間の競合による群落構造の変化、後継樹の生育状況にをモニタリングする。	
28			岩岳山アカヤシオ・シロヤシオ希少個体群保護林	希少	199.39	29	5	オ	キ	○				アカヤシオ・シロヤシオの実生が確認されておらず、上層木の変化に伴うアカヤシオ等の生育状態の変化、林床に注視が必要な保護林。	
29			瀬尻ホソバシヤクナゲ希少個体群保護林	希少	21.20	29	5	イ						光環境の改善(間伐)し、復元を行っている保護林。	
30		天竜	30	川上ツガ・ハリモミ希少個体群保護林	希少	54.03	29	5	オ	キ	○				ツガ、ダケカンバ、ハリモミなどの成木の生育状態や、主木間の競合による群落構造の変化、後継樹の生育状況の変化に注視が必要な保護林。
31				観音山スギ・シブカワツツジ希少個体群保護林	希少	7.94	29	10							
32				京丸山キョウマルシヤクナゲ希少個体群保護林	希少	37.49	29	5	オ	キ	○				シロヤシオやキョウマルシヤクナゲの成木・稚樹の生育状況の変化、林床における後継樹の生育状況など植物群落の動態に注視が必要な保護林。
33				本坂峠ヤブツバキ希少個体群保護林	希少	5.76	29	10							
			計	33箇所											

【モニタリング間隔 5年の基準】

ア: 遷移の途中段階にある保護林

イ: 復元を行っている保護林

ウ: 保護対象の個体群の持続性に問題がある保護林

エ: 保護林外部からの影響を受けている保護林

オ: 鳥獣・病虫害被害及び移入種による影響が顕著にある保護林

カ: 温暖化による影響が顕著にある保護林

キ: その他、短期間で大きな変化が想定される保護林